

令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人江東区文化コミュニティ財団	
施 設 名	江東区江東公会堂（ティアラこうとう）	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内定額(総額)	5,877	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	5,877	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ティアラこうとうジュニアオーケストラ運営事業	令和3年5月23日 (土)～ 令和4年3月20日 (日)※	指導者：高関健（音楽監督）、松川智哉（指揮者）、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団楽団員（楽器指導）、小野明子（特別指導員） 前期15回、後期15回 定期演奏会：8月29日（日） ハイドン／交響曲第100番「軍隊」 ほか	目標値	団員数 160名、 定期演奏会入場者 614名
		ティアラこうとう 大ホール ほか		実績値	団員数 113名、 定期演奏会入場者 310名
2	ティアラ・ジュニアバレエ教室運営事業	令和3年5月16日 (日)～ 令和4年3月13日 (日)※	指導者：石井清子（監修）、東京シティ・バレエ団 安達悦子、堀田麻子、高木糸子、志賀育恵、上山千奈、信田洋子、友利知可子、坂本麻実（指導） 前期15回 後期15回 発表会：6月6日（日）※ 「シンデレラ」ほか	目標値	受講生 160名、 発表会 入場者 548名
		ティアラこうとう 大会議室・リハーサル 室 ほか		実績値	受講生 151名、 発表会 入場者数 286名
3	ホールボランティア養成事業	令和3年7月6日（火） ～ 令和4年3月20日（日）	研修講師：福田佳織（㈱アール&キャリア）	目標値	登録者 20名
		ティアラこうとう 大ホール ほか		実績値	登録者 11名
4	サロン・ドゥ・ティアラ—舞台芸術をもっとたのしむつどい—	令和3年9月1日（水） ～ 令和4年2月24日（木） ※	講師：川上恵（渋沢資料館副館長）、佐々木新平（指揮者）、天沼典子（調律師）	目標値	参加者数 120名
		ティアラこうとう 大会議室 ほか		実績値	参加者数 72名
5	こうとうジュニア音楽祭	令和4年3月20日（日）	出演：江東少年少女合唱団、ティアラこうとうジュニアオーケストラ、吉野和かな、寺田百花、西澤真耶、山本菜月、大川彪 演目：美しく青きドナウ ほか	目標値	入場者 548名
		ティアラこうとう 大ホール		実績値	入場者 523名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

ミッション2「将来の芸術文化の担い手を輩出し、新たな地域コミュニティを構築するとともに、明るい未来を創造する」を達成するため、人材養成事業において以下の目標を定めた。

目標1 ジュニア事業からプロや専門大学への進学、留学に進んだ参加者を年間2名以上輩出する。

→達成 【事業番号1】ジュニアオーケストラからは音楽大学、音楽大学付属高合格者が2名出た。【事業番号2】ジュニアバレエからは洗足学園音楽大学、東京シティ・バレエ団への入団など計7名が出た。

目標2 【事業番号3】ホールボランティア登録者の出席率を50%以上とする。

→未達成 家庭内に感染高リスク者がいる場合ボランティア参加を見合わせる方も出て出席率は低調となった。

目標3 【事業番号4】サロン・ドゥ・ティアラの入場者・参加者数を定員の80%以上とする。

→未達成 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で募集時点と状況が変わってしまったため。

目標4 【事業番号5】こうとうジュニア音楽祭の入場者のうち出演者の家族以外の入場者を30%以上とする。

→達成 41.4% 出演する団員家族や関係者のみならず、広く区民の関心を得ることができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業実施の時期は年間を通して平均的に設定したが、4月から5月にかけて緊急事態宣言が発令され事業の中止を余儀なくされた。【事業番号1】ジュニアオーケストラは5月の開講が遅れての開催となった。【事業番号2】ジュニアバレエは5月の発表会を中止し、6月に保護者・関係者のみの公演とした。

【事業番号3】ホールボランティア養成事業は募集時期を7月にずらし活動開始した。【事業番号4】サロン・ドゥ・ティアラは年間4回を平均的に配置していたが、5月の緊急事態宣言を受け第1回を中止とした。

年度の後半は感染対策を施し、定員を減らした上で、できるだけ中止せずに事業を計画通り実施するため工夫した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業番号1	ジュニアオーケストラ	中止	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
事業番号2	ジュニアバレエ	延期	○	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
事業番号3	ホールボランティア				←	←	←	←	←	←	←	←	←
事業番号4	サロン・ドゥ・ティアラ		○	中止			●		●			●	
事業番号5	こうとうジュニア音楽祭												●
東京都における新型コロナウイルス感染防止措置			緊急事態宣言	重点措置	緊急事態宣言							重点措置	

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業全体の要望額に対する決算額の割合は87.8%となった。減となった要因は【事業番号3】ホールボランティア養成事業での連絡手段をメール化したための通信費の縮減、【事業番号4】サロン・ドゥ・ティアラの新型コロナウイルス感染拡大のため回数減(4回→3回)と、費用のかからない講師の回があったためである。

【事業番号1】ジュニアオーケストラは5月の開講時に感染拡大が重なり開講日を延期したが、その後は回数調整により計画通り実施することができた。【事業番号2】ジュニアバレエは5月開催の発表会を中止、6月に時期をずらし関係者のみの発表会へ変更したため、延期期間の追加指導料確保のため舞台演出を簡略化した。

【事業番号5】こうとうジュニア音楽祭の事業費は、ほぼ計画通りに執行した。

要望額に対する決算額の割合		
事業番号1	ジュニアオーケストラ	95.8%
事業番号2	ジュニアバレエ	80.4%
事業番号3	ホールボランティア	73.5%
事業番号4	サロン・ドゥ・ティアラ	40.1%
事業番号5	こうとうジュニア音楽祭	84.7%
合計額		87.8%

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

江東区文化コミュニティ財団で定めた感染拡大防止ガイドラインを遵守し、コロナ禍において芸術文化活動の拠点として活動が維持できるよう努めた。

【事業番号 1】ジュニアオーケストラ…6月までは開講日の延期、時間短縮や基本的な感染対策を施して練習を中止せず実施し、音楽監督就任後初となる高関健氏の指揮による定期演奏会を実現することができた。団員は短い練習時間で非常に高い集中力で合奏練習に臨み、仕上がりの良い演奏を披露することができ、地域の文化拠点としての機能を発揮した。

【事業番号 2】ジュニアバレエ…1回あたりのレッスン受講人数の調整、リハーサル室から面積の広い大ホール舞台や大会議室への会場変更、レッスン中のマスク着用徹底など、感染対策を施して練習を継続することで地域の文化拠点としての機能を発揮した。

【事業番号 3】ホールボランティア養成事業…活動開始前に接遇のプロから研修を受けたことで参加者の意識が高まり、服装や接客の基本的なマナーを身につけて会場案内等の業務にあたることができた。登録者は区内在住・在勤者であり、区民の力で運営する地域の文化拠点としての機能を発揮した。

【事業番号 4】サロン・ドゥ・ティアラ…「舞台芸術をもっとたのしむ」という趣旨のもと、大ホール主催公演にちなんだレクチャーや、ピアノ調律師を招いたピアノの話と実演を実施した。いずれも主催公演でのお付き合いやピアノの管理を依頼している調律師との関わりから生まれた人脈で講師を招いており、地域の文化拠点としての機能を発揮した。

【事業番号 5】こうとうジュニア音楽祭…ティアラこうとうが運営するジュニアオーケストラ、江東少年少女合唱団（江東区文化センターで運営）を中心に、ティアラこうとうジュニアバレエ出身でプロのダンサーとなった4名や、豊洲こどもミュージカル教室（豊洲文化センターで運営）受講生を出演者とし、あらゆるジャンルで江東区文化コミュニティ財団が育成してきた若い人材を集結させることで、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【事業番号1】ジュニアオーケストラ、【事業番号2】ジュニアバレエでは江東区芸術提携団体が指導にあたっており、コロナ禍で練習中止や日程変更にも柔軟に対応が可能であった。最終的には事業を継続して実施することができ、次世代の指導で地域の文化芸術の発展に大きく貢献した。また、【事業番号5】こうとうジュニア音楽祭では、江東区文化コミュニティ財団の管理運営する江東区文化センター、豊洲文化センターで運営する江東少年少女合唱団や豊洲子どもミュージカル教室の受講生と、ジュニアオーケストラとの共演を実現、区内で活躍するジュニアが切磋琢磨する姿をお互いに見ることができ、地域の文化芸術の発展につながったといえる。

《事業終了アンケート意見欄より抜粋》

【事業番号1】ジュニアオーケストラ

●本番のホールで練習ができて恵まれている●様々な年齢の受講生と接することができ良い社会勉強になっている ほか

【事業番号2】ジュニアバレエ

●生演奏のピアノでレッスンを受けられることは大変貴重●教室の先生とは違った角度からのアドバイスをいただいた●いろいろなスタジオの子と一緒にいて良い刺激を受けている ほか

【事業番号4】サロン・ドゥ・ティアラ

●大変面白かった、コンサートが楽しみになりました（渋沢栄一）●普段見ることのできない場所に丁寧に案内していただけてうれしかったです（劇場体験）●ピアノについて知らなかったことも多くとても面白かった（ベーゼンドルファー）

【事業番号5】こうとうジュニア音楽祭

●江東区民として子ども達のために続けてほしいです●江東区出身の若いアーティストを応援したいと思いました●今後も合同で発表する機会があればよいと感じました●江東区出身の方々の活躍を直接目にし、現在練習に励んでいる友達がたくさんいることを実感できる素敵なコンサートでした。



【事業番号2】ジュニアバレエ団発表会（延期開催）



【事業番号4】サロン・ドゥ・ティアラ～劇場体験



【事業番号5】こうとうジュニア音楽祭

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

《事業運営》

江東区文化コミュニティ財団では指定管理期間である5年間の事業計画を定めている中で、ティアラこうとうでは芸術文化振興、次世代育成分野を中心に役割を担っており長期的な計画を立てて事業を実施している。

《経営戦略》

江東区文化コミュニティ財団では、事業計画に基づいた経営改善計画を策定しており、指標を用いて事業の達成状況を管理している。

《人事戦略》

江東区文化コミュニティ財団では、常勤・非常勤合わせて130名の職員を擁しており、定期的な人事異動によるノウハウの共有、職層や経験年数に合わせた職員研修の実施、アートマネジメント研修会や研究大会への参加を通じたスキルアップを行っている。ティアラこうとうでは、月に1回の職員ミーティングとグループウェアでの情報共有を図り、OJTによる業務の習得、引継ぎを行っている。

《ネットワーク構築》

ティアラこうとうでは年間を通して区主催の大規模行事（成人式、敬老の集い等）の会場となっており、小・中学校の音楽鑑賞教室や連合音楽祭の会場としても活用されている。また区内小学校や福祉施設へのアウトリーチ事業、障害者対象公開リハーサル、劇場まつり「ティアラあ〜とふる DAYS」などの事業を通じて地域の関係団体とも連携をとっている。

ティアラこうとうでは、上記の点を踏まえてPDCAサイクルを下記のように行っている。

Plan

(前年度8月ごろ) 事業計画 予算編成 助成金要望書

↓

Do

(当該年度中) 助成対象活動の実施

↓

Check

(当該年度中) 事後評価、実績報告書作成

↓

Action

(年度末) 改善点は次年度または次々年度予算編成に反映させる